

アークフラッシュ施工された老人施設からは5年間インフルエンザの発症が報告されておりません。

< 豚連鎖球菌の新たな被害は?? >

中国衛生部は8日、豚連鎖球菌感染について四川(しせん)省では新規感染例が3日以降、6日間連続して報告されなかったことから、9日から感染例に関する対外報告を取り止めると発表した。今後も各地方で散発的に感染例がでた場合には対外報告を行うが、四川省での大量感染については実質的な制圧宣言が行われた格好だが、どのような経路でどのようなメカニズムで感染が広がったのかは解明されていません。

< テング熱被害 >

ウイルス性の熱帯病「デング熱」が今年、フィリピン各地で流行している。地元英字紙は、今年の発生件数は例年を大幅に上回る2万件に達すると紹介し、国民に注意を呼びかけている。フィリピン政府はデング熱を媒介する蚊の発生防止対策を全国の自治体に指示

< インフルエンザ関連 >

*農林水産省は4日、カザフスタンで鳥インフルエンザが発生したとの情報が入ったとして、同日付で同国産の家きん肉(鶏やアヒルなど)の輸入を一時停止したと発表した

*農水省は27日、ロシアで鳥インフルエンザが発生したとの情報を受け、鶏肉やアヒル肉など同国産の家禽(かきん)肉の輸入を一時停止したと発表した

*インドネシア保健省は20日、ジャカルタ郊外のバンテン州で12~14日に死亡した父娘3人が、鳥インフルエンザに感染していたと発表した。同国で鳥インフルエンザ感染者の死亡は初めて。同国では03年以降、鳥インフルエンザが流行。今年5月に香港で行われた検査で同国初の感染者1人が見つかった。

*中国南部の家禽(かきん)を発端にした鳥インフルエンザ(H5N1型)感染拡大の可能性を指摘する論文を英科学誌に発表した香港大の研究者が発表後、中国農業省から論文は「国家機密漏えい」に当たるとする通知を受けていたことが分かった。12日付香港紙、香港経済日報が伝えた。

通知は論文の内容を否定した上で「法的責任を問う可能性もある」と研究者に警告したという。

中国では5月末、当局の許可なくウイルスのサンプルを収集・分析したり、感染情報を公表することを禁じる新条例が施行された。研究者への通知は同条例などが根拠とみられるが、感染情報の迅速な開示が阻害されるとの懸念が高まりそうだ。

今月の主な施工

前田建設工業役員室改修工事に伴う光触媒加工(8月、9月)

大成建設鹿浜病院改修及び新築に伴う光触媒加工

横浜国立大学図書館 空気触媒施工後の不具合の為、光触媒施工

リゾートトラスト改修工事及び新築工事に伴う光触媒加工

<安全を手に入れるには！！>

かれこれ15年以上になる。

大手商社を辞め独立して洗浄剤の開発、販売をしていた時、知り合いに聞かれた「光触媒って知っているか？」これが私と光触媒の出会いだった。

光触媒という言葉を目にしたことが有る人は少ないかもしれない。極めて簡単に一言で言うと「光が照射されると自分自身は変化せずに化学反応を促進する物質」であり、その原理を応用すると脱臭、殺菌、抗菌、防汚、有害物質の除去などができ、その効果は永久的に続くと言う事は40年ほど前に学説的に証明されていた。

しかし、当時、それを商品化して生活の場で役立てる事は極めて困難であり、不可能とさえ言われていた。

私達は、その研究開発に挑戦していたのである。

洗浄剤開発の知識を借りたいと懇願されアドバイザーとして光触媒塗料の開発に携わってきた。

ところが支援してくれていた某大手企業が外国資本に買収され関係者は一様に途方に迷ってしまった。

もう少しで光触媒塗料の目途が立ちつつある。実現すれば壁に塗る事はもちろん、タオル、シーツ、枕カバーなど使用用途は広がるばかり、ここで頓挫してしまうのは余りに惜しいし、何より商品化できれば絶対に世の中の為、人々の役に立つと確信が有った。

結果、この事業を私達が買い取る事になったが、これは市民権を得るまでには相当な時間が掛かるといのが最初の実感であった。

何しろ、出会う人、出会う人が光触媒を殆ど知らないのである。

幸い、洗浄剤の販売でそこそこの利益があった。慌てず、焦らず、いわゆる「急がば回れ」的に広めていこうと決心した。

そこで5年間は全く販売せず、経過試験に徹する事にした。

例えば、お客様から「この塗料はどれくらい持つの？」と聞かれた時に5年の経過試験の実績があれば「最低5年は持ちます」と言い切れる。

ポット会社を作り、パッと営業を掛ける会社とは違う。そういう線引きを自分の中で持ちたかった。

また、広告なども一切打たなかった。光触媒を簡単に、しかも多くの人に理解してもらう事は非常に難しい。それよりも一人一人に心底納得してもらい、そこから末広がりになっていく事が一番確実な道に思えたからである。

以前、知人の紹介で都内の某病院を訪ねた事がある。

光触媒加工をして院内感染を予防して欲しかったからだ。

院長には「うちは抗菌素材を使っているから院内感染なんてありえない」と断られたが、「2、3の病室だけでも検査させて欲しい」と私も食い下がった。

検査は病院側の人間が行う条件で承諾して頂いた。

菌の測定を行うとどうだろう

病院側には驚愕の結果がでたのである。

すぐさま、病室に光触媒の塗布、シーツ、枕カバーにも加工がされた。

加工されたものに変更して1週間が経過した。同じ条件で菌の測定が行われた。

菌の数値は限りなくゼロに近づいていた。

結局、その病院は全病棟に光触媒を施工し、その事例を他の病院や老人介護施設に知らせると次々と施工を依頼されるようになった。

ちなみに従業員の方々には殺菌効果は勿論の事、消臭効果も大変喜ばれている。

—昨年中国で流行した SARS、米国での炭疽菌テロの予防で大発展、特に米国では軍事施設のバイオテロ予防に採用され厚い信頼を得ている。とかく日本では安全であり事が当たり前であり、お金を掛ける概念さえ無かった。しかし、昨今の世界情勢から判るように、もはや安全は得がたいものであり、タダで手にする事はできないものと考えたほうが良いだろう。

特に世界の要人が使用する施設では何かが起こってからでは遅い！！

仮に起こったとしても「これだけの対策をしていましたが……」というのか、「有る事は予想していましたが何もしていませんでした……」というのかで世間はその施設に対しての見方は大きく変わる。

国内では、まだまだ知名度も低く、事業としては当社の一人勝ち状態が続いている。しかし、私達の真の願いは多くの人にこの事業に参入して頂き、事業から産業に発展させる事。そして真の安全をもたらす事である。

株式会社アークフラッシュ本部
代表取締役 笹川 透